

泉龍寺

【交通】小田急線狛江駅下車徒歩2分

【良弁伝説】

泉龍寺には、奈良時代に良弁らうべんにより開創されたという伝説が残されています。

良弁がこの地で雨乞いをしたところ、竜が舞い上がって雨を降らせ、湧き出したのが、弁財天池（市指定文化財）といわれています。当地の旧村名「和泉」の地名もこの池などによるものと思われる。

【旗本石谷氏の菩提寺となる】

泉龍寺は、戦国時代末に曹洞宗の寺院として復興されました。天正18年(1590)、関東に入国した徳川家康から、翌19年に和泉村で100石の知行地を与えられた石谷清定いしがやきよさだは、泉龍寺の南側に陣屋を構え、中興開山の鉄叟てつそう瑞牛ずいぎゅうに帰依し、寺域を整備しました。これにより、石谷清定は中興開基となり、以後、旗本石谷三家は泉龍寺を菩提寺とし、慶安2年(1649)には徳川家光から寺領20石の御朱印を与えられました。



石谷貞清画像

泉龍寺には、絹本著色石谷貞清画像(慶安2年・1649)、木造石谷貞清坐像、石川丈山撰文「宗淳居士挽詞并序」の扁額(明暦3年・1657)の石谷氏関係の市指定文化財があります。

石谷貞清(1594～1672)は、石谷清定の三男で上総国などで1,500石の知行を与えられていました。寛永14年(1637)に島原の乱鎮圧の副使として赴き、慶安4年(1651)には江戸町奉行となり、由比正雪

の乱に手柄がありました。同年、伊豆美神社に石造鳥居(市指定文化財)を寄進しています。

宗淳は、和泉村地頭石谷清正の法名で、貞清の兄にあたります。扁額(詩板)の内容は、清正の事績と死を悼む詩からなっています。

【まわり地蔵】

泉龍寺は江戸時代中ごろから、子育て地蔵の寺として知られていました。

本堂に安置されている子安地蔵尊は、通称を子育て地蔵といい、「和泉の地蔵さん」「まわり地蔵さん」などと呼ばれていました。

地蔵尊は、江戸時代中ごろから昭和19年まで、青山・本所・神田・日本橋などの江戸市中や、練馬区・北区方面、世田谷区・杉並区方面、立川市・小平市方面、埼玉県所沢市・入間市方面など広範な地域の講中の家々を巡行していました。まわり地蔵の呼び名も、この巡行によるものです。

地蔵尊は、泉龍寺を毎月25日に巡行に出発し、翌月23日に講中の人たちによって送り込まれて帰りました。翌24日の縁日には、境内に市が立ち、送り込みや参詣の人たちでにぎわいました。

鐘楼門は、この地蔵尊の信者や講中の寄付金などをもとに、天保15年(1844)に建てられたものです。



まわり地蔵

【問合せ先】狛江市教育委員会 社会教育課
TEL 03-3430-1111(内線2371)